

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究5】在宅介護職員の実地研修に関する研究

研究分担者：小野恵子

（愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター・社会福祉士）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和4年度の研究成果として、新型コロナウイルス蔓延にて3回のうち1回のみの実施となったが、HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に1日ながら研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。また、高知県では、2施設から3名の訪問看護師（看護師歴平均17.6年：訪問看護師歴平均5年）が参加し、日程を決めて1名ずつ参加して実施研修を行った。このような具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療の推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

**研究分担者**

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授  
末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授  
井門敬子・南松山病院・薬剤部長  
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師  
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師  
武内世生・高知大学医学部・准教授  
今滝修・香川大学医学部・講師  
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長

**A. 研究目的**

ブロック拠点病院が四国にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指

定され、累計220名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県32.2～35.9%であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているがHIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さら

に治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。さらに在宅介護職員に対して、具体的な研修を行い、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療の推進にも繋げて行くことを目的とした、極めて意義深い研究活動と考えている。

また、アンケート調査等を通じ地方の HIV 診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

## B. 研究方法

HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1～3日間ずつ研修会として、当院の HIV 患者の現地研修（外来、病棟）と講義・討議を年に数回行った。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

## C. 研究結果

愛媛県内の在宅介護職の看護師2名に令和4年10月24日に当院の HIV 患者の現地研修（外来、病棟）と講義・討議を1回実施した（3回計画したが新型コロナウイルス蔓延にて1回のみ実施）（図1）。

高知県では、2施設から3名の訪問看護師（看護師歴平均17.6年：訪問看護師歴平均5年）が参加し、日程を決めて1名ずつ参加して現地研修を行った。

愛媛県では、計2名のみ研修を行った

が、アンケートを行ったところ研修の全体的には満足度は高かった。

また、愛媛県では研修前は受け入れに不安であったが、研修後は2人とも受け入れ可能とのアンケート結果であった。

さらに「どのように HIV 感染患者とかがかわっているのかが判ってよかった。基本的な薬や検査について理解できた。」などの意見があった。

令和4年度 HIV/AIDS診療研修生スケジュール 研修期間：R4年10月24日			
日時	時間	場所	講義内容(担当)
8:45	15分	臨床研修むす	オリエンテーション・看護部挨拶 (1-7病棟医師部長)
9:00	45分	臨床研修むす	医師講義：基礎知識(ウイルス、症状、治療、検査、U=U、薬害、血友病、歴史等) (東慶医師)
9:45	30分	臨床研修むす	看護師講義：感染ケア(病棟看護)、感染対策(標準予防策、暴露時対応等) (1-7病棟二宮看護師)
10:15	45分	臨床研修むす	薬剤について (廣松薬剤師)
11:00	30分	臨床研修むす	看護師講義：感染ケア(在宅介護支援) (廣松看護師)
11:30	60分	内科外来	外来見学・患者面談
12:30	60分	臨床研修むす	昼休憩
13:30	30分	臨床研修むす	看護師講義：感染ケア(外来看護) (本間看護師)
14:00	30分	臨床研修むす	検査相談 (谷口臨床検査技師)
14:30	30分	臨床研修むす	歯科診療・口腔ケア (吉田歯科衛生士)
15:00	30分	臨床研修むす	心臓士講義：セクシュアリティ (中尾心臓士)
15:30	30分	臨床研修むす	MSW講義：制度、地域連携等 (MSW)
18:00	60分	1-7病棟 北フロア5F	HIVカンファレンス 研修の振り返り
17:00		臨床研修むす	アンケート記入

図1 在宅介護研修スケジュール

さらに講義、カンファレンスも含め全体的な意見として、「多職種の見解も含めて全体像が見られた。各職種が意見を持ちあい、方向づける関係が素晴らしいと思った。チームの関係性が良く話し合いやすい雰囲気であった。今後の介護の役に立つことを強く感じた。」という前向きな意見が得られ HIV の介護・在宅医療の充実がさらに図れた。

また、高知県では、アンケート結果から「HIV 陽性者の管理がもっと難しいものかと思っていたが、そうではなかった。病気

そのものより、患者さんに寄り添う難しさを感じた」「HIVの知識がなく漠然とどこか怖い病気と思っていた。曝露も殆どないことや、薬でコントロール出来ることなどを知り、知識を深めることができ、怖い病気ではないと思うことが出来た」「今回の研修の内容をスタッフと共有し、今後、在宅に依頼があった場合に対応できるよう、ステーションとして準備したいと思う」

「HIVの患者さんが高齢になってくるに伴い、在宅で生活する方が増加してくるので、薬の管理やHIVの認識を働いている施設で共有し、ステーションが一丸となってケアをしていきたい」等の意見があり実践的な研修を継続することは、大変意義深いと考えられた。

#### D. 考察

HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、在宅介護職の看護師に愛媛県も高知県も各々1日間は研修会として、中核拠点病院のHIV患者の実地研修（外来、病棟）と講義・討議を行うことができた。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療への推進にも繋がりを、極めて意義深い研究活動と考えている。アンケートの結果、かなり前向きで好意的な意見も多く見受けられ、HIV感染症に対する偏見や誤解が解け、さらに最新の知識が得られる良い機会と考えられた。さらに近々具体的な患者の在宅医療への受け入れが円滑に進むことを期待している。

#### E. 結論

在宅介護職の看護師に対し、実地研修を実施した。HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを

踏まえ、愛媛県および高知県内の在宅介護職の看護師に各々HIV患者の実地研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療への推進にも繋がりを、極めて意義深い研究活動と考えている。

#### F. 健康危険情報

該当なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、笹岡優衣、高田清式、武内世生. HIV陽性者の就労状況調査—10年前と比較して—. 日本エイズ学会誌,24(3):99-103,2022
2. Suemori K, Taniguchi Y, Okamoto A, Murakami A, Ochi F, Aono H, Hato N, Osawa H, Miyamoto H, Sugiyama T, Yamashita M, Tauchi H, Takenaka K. Two-year seroprevalence surveys of SARS-CoV-2 antibodies among outpatients and healthcare workers in Japan. Jpn J Infect Dis 75(5):523-526, 2022
3. Morizane A, Uehara, Kitamura S, Komori M, Matsushita M, Takeuchi S, Seo H. Staphylococcus aureus nasal colonization increases the risk of cedar pollinosis. Jof general and family medicine 23: 172-176, 2022
4. 高原由実子、三木浩和、中村信元、中村昌史、住谷龍平、大浦雅博、曾我部公子、高橋真美子、丸橋朋子、原田武志、藤

井志朗、安倍正博、岡本秀樹、岡田直人、矢野由美子、高橋真理、青田桂子、尾崎修治。HIV 感染症および後天性免疫不全症候群患者の臨床的特徴と今後の課題。四国医学雑誌 78(1,2) : 2022

## 2. 学会発表

1. 高田清式。愛媛での HIV 診療の現況～必要とされている四国地方での実際～。第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会シンポジウム、2022 年、長崎。

2. 臼井麻子、中尾 綾、西田拓洋、吉川由香、海面 敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穰、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式。中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

3. 中尾 綾、レイシー清美、山之内純、末盛浩一郎、河邊憲太郎、竹中克斗、高田清式。HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

4. 菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、高田清式、吉村和久、杉浦互他。2021 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

5. 中村美保、四國友理、西田拓洋、高橋武史、前田英武、岡崎雅史、宮崎詩織、武内あかり、中尾 綾、高田清式、武内世生。MSW と看護師の連携による ADL 低下患者への復職支援。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

6. 若松 綾、本園 薫、中尾 綾、永井祥

子、池田 聖、乗松真大、井門敬子、末盛浩一郎、越智俊元、山之内純、高田清式。長期療養患者への関わりについて。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

7. 末盛浩一郎、谷口裕美、本園 薫、高田清式、竹中克斗。HIV 感染治療者における BNT162b2 ワクチン接種後の抗体価の評価。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

## H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし